

# annual report 2016-2017

---

---

特定非営利活動法人 三段峡一太田川流域研究会

この川と、生きる。

持続可能な太田川流域社会の実現のために

## 目次

---

- 1 2017年度振り返り
- 2 さんけんの目指す三段峡と太田川流域
- 3 中期ビジョンのなかの2017～2018の位置づけ
- 4 2017年度事業報告
  - ・守る活動 (conservation)
  - ・学び伝える活動 (interpretation)
  - ・つなぐ活動(management)

## 代表挨拶

---

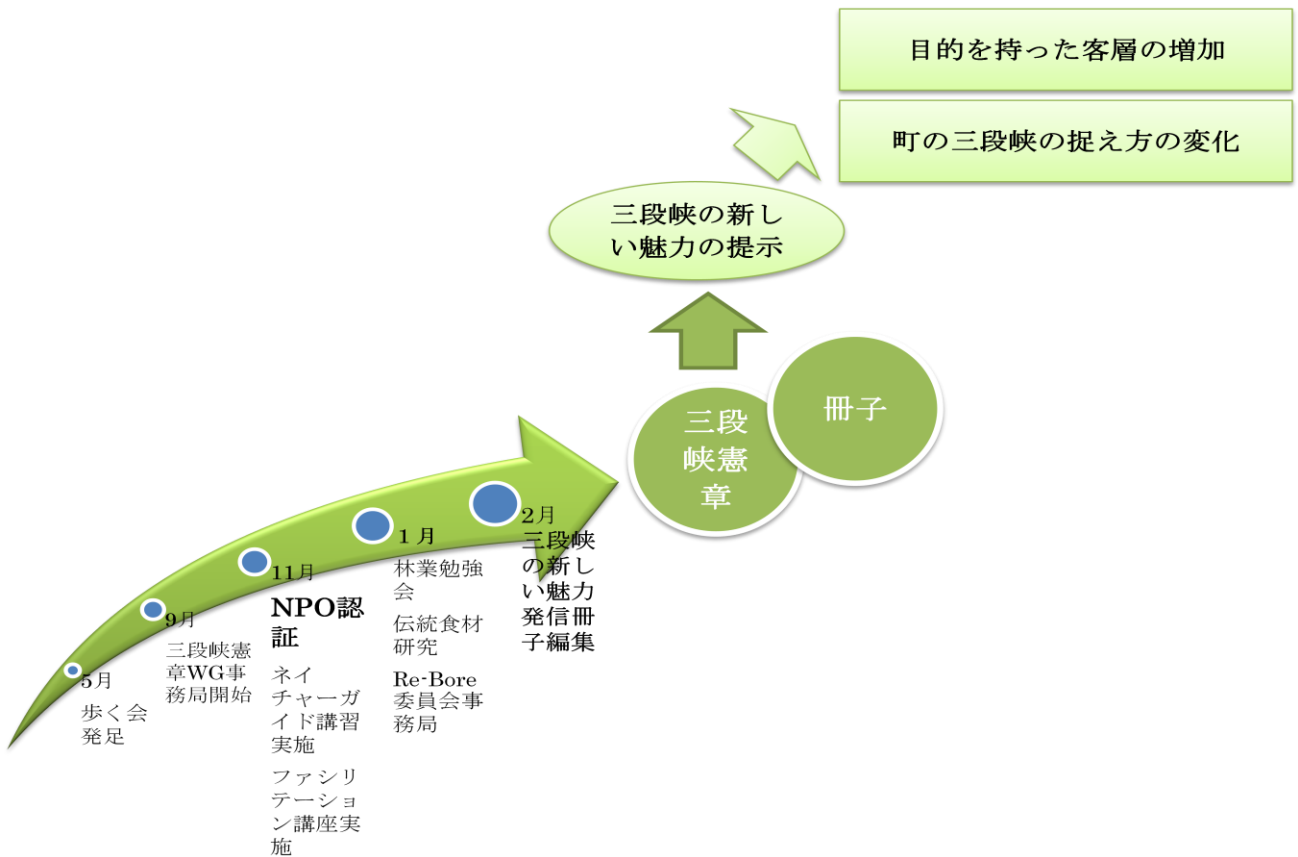
私たちのNPOの副理事長である高下務氏は、熊南峰を「三段峡の父」と言います。僕にとっての高下氏は「三段峡の父」です。南峰と同じく高下氏がいなければ今の三段峡はありませんでした。NPO法人三段峡－太田川流域研究会の最初の年次報告書を発行するにあたり高下氏に感謝したいと思います。

南峰の時代から100年がたち、地域の在り方も大きく変化したように思います。情報環境や教育水準が途方もなく向上し、社会の成り立ちが過去とは違う階層に達したように感じます。ぼくは今を「多様な視点を有する共同体による地域運営の時代」と考えます。

三段峡－太田川流域研究会の組織運営は、これからの地域社会のモデルとなるものでありたいと思います。総会の在り方、会員の参加と理事との関係など、従来のNPOとは違う方法をとるかもしれません。混乱や非効率的な運営を行うこともあると思います。

ただ僕の目指す運営は「会員が主役」のNPOです。地域の主役が住民であるように、NPOも主役は会員です。会員のみなさんと楽しく、わくわくするような活動を進めていきたいと思っています。

# 1 さんけんの28年度の振り返り



## 三段峡の位置づけが変わった

三段峡の魅力はなんだろう？そんな素朴な問いかけが2016年の2月から行われた三段峡憲章ワーキンググループのスタートでした。

それからちょうど1年の間、三段峡の価値を問い直し、再定義を行いました。そこで生まれたのが三段峡憲章であり三段峡の新しい魅力発信冊子（Sandankyo Outdoor Museum）です。これから100年先に三段峡の何を大切にしてい残していくのか、方向性を示せました。

従来型の「物見遊山型観光」・「お金儲けのための観光」から「新しい観光」「地域づくり」のための意識改革に貢献した本年の活動でした。

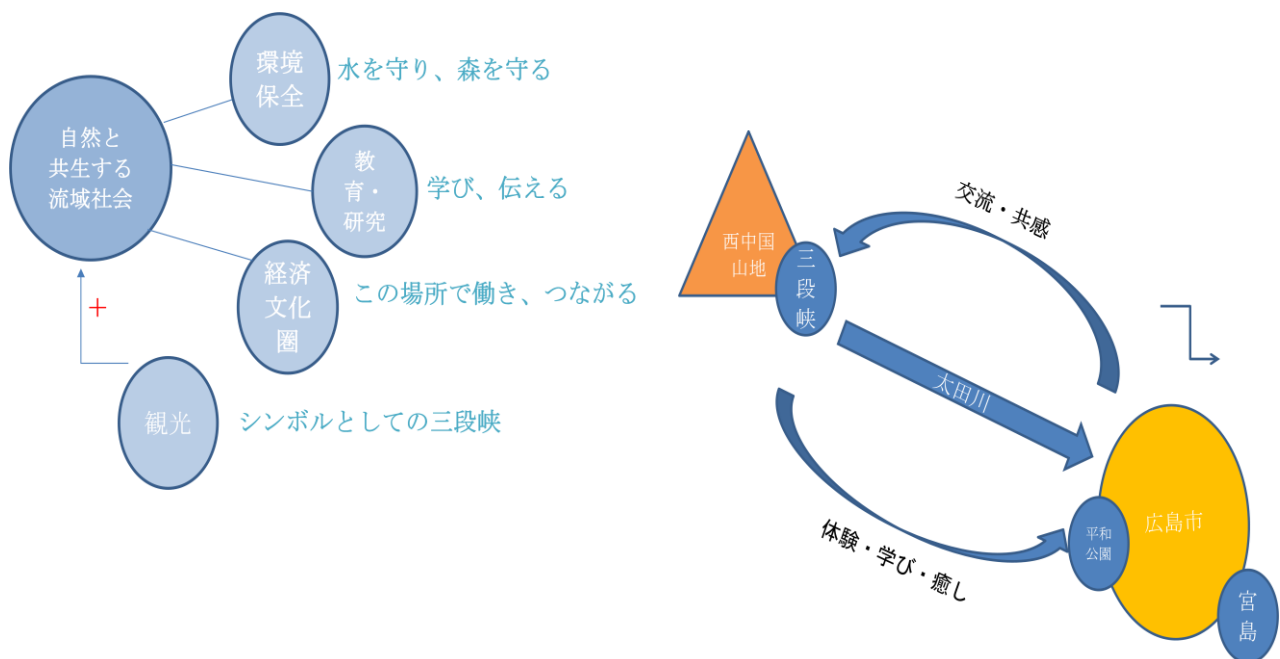
現在、すでにテレビをはじめとするメディアの取り上げ方の変化、目的を持った三段峡への来訪者（町民を含む）の増加などが見られ、行政サイドの意識も同じ方向となりつつあります。「三段峡とはなにか？」という根本を確認し合う、まっとうなスタートを会員のみなさまを始め多くの方と切る事ができました。

また将来への布石として、経済循環圏の核になるエネルギー生産（バイオマス等）の話し合いを「林業を考える会」、地域づくりのすべての基本になる話し合いによる合意形成の方法として「ファシリテーション講座・勉強会」を継続的に行っていることも報告させていただきます。

こういった事業収入にはならないけれども、絶対に必要になる取り組みを行えた事は、支援者の皆様のお陰です。

本当にありがとうございました。

## 2 さんけんの目指す三段峡と太田川流域



### 持続可能な社会のために

わたしたちは、持続可能な社会の最小単位は「流域」だと考えます。太田川上流にある特別名勝三段峡を Outdoor Museum と捉え、「流域」の共感と学びの場とし、本当の豊かさとは何かを考え、自然と共生する循環型社会の実現を目指します。

## 三段峡の位置づけをかえる

---

沢山の観光客が訪れ、周辺の事業者を中心に町が活性化する。三段峡はお客を呼び寄せるシンボルでした。これを「観光地としての三段峡」と仮に表現するとします。観光の多様化によって減少する来峡者数、それに伴う事業者数の減少、それによって更なる来峡者の減少という悪い連鎖をいかに食い止めるかが従来の課題でした。

三段峡開峡 100 年を機に制定された「三段峡憲章」は「観光地としての三段峡」と言う位置づけを変えるものです。自然の価値を見直し、歴史と文化の繋がりを持続させ、人と人とのつながり（社会）の在り方を改めて考える場所としての三段峡と位置付けました。これを「問いかける三段峡」と表現しています。

位置づけを変える事には大きな効果があります。貴重な動植物の保護を例にとれば「観光地としての三段峡」は集客効果が見込められれば「保護」をするかもしれませんが、そうでなければ積極的な保護は行いません。教育でも同じです。三段峡は観光地であって「学びの場」ではないという位置付けが長く続いています。

## 安芸太田の子供たちへ、そして広島の子供たちへ

---

学びの場として子供たちに三段峡は沢山の事を考え、知るきっかけを与えてくれるでしょう。多様な生態の動植物や積み上げられてきた広島の歴史は、自分たちの成り立ちを知ることができます。岸壁と清流の美しさは感性を、厳しい環境で暮らす人々の知恵は優しさを、溪谷のある種の危険さは生きる力を学びます。

そしてそれは金銭的な豊かさとは違うベクトルの「豊かさ」を知るきっかけになるのです。この位置づけを変える取り組みは、ゆっくりとしか進まず、長く継続しなければなりません。そこで私たちは活動の継続性を保つために NPO 法人化をおこないました。

## そもそもなぜ三段峡なのか

---

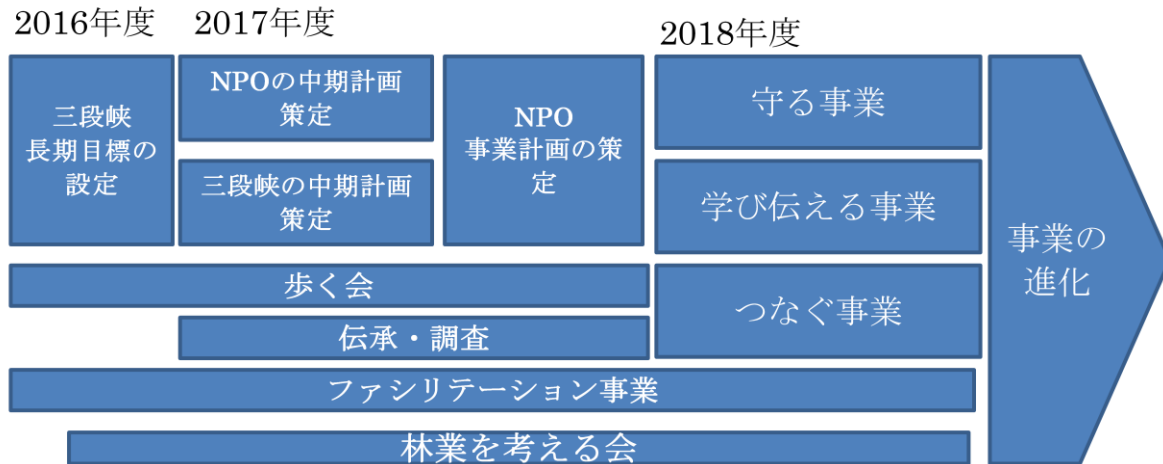
私たちは「流域」と言う単位を大切に考えています。流域とは「川が雨水を集めながら流れ集まり、海まで続く地理的領域」です。人間が決めた行政単位ではなく自然の中の環境循環圏の単位であり、私たちは太田川流域圏の中で暮らしています。

太田川流域には素晴らしい自然が残り、フィールドとして十分な場所は数多くあります。その中で三段峡は、先人たちの尽力により観光地としてのブランドをすでに持ち、広いフィールドの中を探勝路などが整備され活用しやすい環境です。

また 100 年前に三段峡に入峡した熊南峰をはじめとする人々の記録や、たたら製鉄や林業などの歴史やもっと古くは戸河内インター付近の縄文初期の遺跡など、太田川流域圏のなかで大切な場所であると共に、活用しやすい環境があるという事で、私たちの取り組みの最初の拠点を三段峡としました。

## 中期ビジョンのなかの 2016 年度—2017 年度の位置づけ

### さんけん中間ビジョン



三段峡の目指す方向性・長期計画（10年）が決り、これからは具体的な三段峡中期計画が必要となります。NPOとして三段峡中期計画（3年）の策定に積極的に関わるとともに、NPOの中期計画（3年）もそれに沿ったものをつくりあげたいと考えています。行政と住民が歩調を合わせて目標を決め、工程を考えるコト自体が大きな成果だと思います。

NPOとしても2016年度に引き続き「考える」ことに重点を置く活動になる。「行動をしろ」という意見もあるかもしれませんが、10年後今より情熱をもって活動をしているために大切な時期と考えています。

その中で、自分たちが学ぶための活動や、伝えるための活動として「歩く会」や先人の知識を蓄積するための活動は継続をして行います。特に椽餅をはじめとする伝統食品の継承や、三段峡の「古道」の調査・整備を行う「切り開く会」を積極的に行います。また三段峡 Outdoor Museum 実現のための調査の蓄積なども継続をします。

町の根幹を変える可能性のある2つの事業、「意思決定・合意形成」のための方法として「ファシリテーション普及事業」、「経済循環率」の向上のための薪エネルギー研究事業として「林業を考える会」の継続も行います。

そしてファンレイジング事業（資金調達・会員獲得）も積極的に行います。活動実績が少ない団体ではありますが、自分たちの活動が「支援を得られるものであるか」という活動の規律を持つためにも取り組みたいと思います。また積極的にNPOの活動をPRし支援者を得るという文化を築きたいと考えています。

## さんけん事業報告

---

---

### ・ 守る活動 (conservation)

---

#### ・ 28年度の目標

三段峡の環境の守るべき部分が何かを精査する。

#### ・ 主な成果

動植物の盗掘の証言や、川に砂利がたまる問題、水質が以前より悪化しているという証言など得る事が出来た。

#### ・ 29年度へ向けて

引き続き調査を進めるとともに、例えば盗掘についても「注意すべき動植物はなにか」といった知識の不足が三段峡に関わる人々に共有されていない。環境に対しての問題の共有化をすすめていくことが必要である。

#### ・ 実施した事業

三段峡整備事・調査事業

### ・ 学び伝える活動 (interpretation)

---

#### ・ 28年度の目標

伝えるための視点と伝え方を学び、三段峡に適したスタイルの方向性を決める。

#### ・ 主な成果

先進地のインタプリターの視点（奥入瀬・北広島）、また地元でガイドを実践されてきた来た方々の視点の双方を学び、三段峡で何が学ぶことが出来るか、何を伝えるのかと言う事の方向性を考察し、メンバー間で共有された。

#### ・ 29年度へ向けて

自分たちがさらに三段峡に足を踏み入れ、魅力を発見するとともに、動植物・地学・歴史などをより深く学び、知識の集積を行う。また少しずつインタプリテーションの実践を行い、その為に安全管理の

取り組みも行う。

#### ・実施事業

- ・三段峡インタプリター養成講座の実施 河井大輔（奥入瀬自然観光資源研究会（おいけん））
- ・三段峡を歩く会実施（4・5・6・7月）
- ・伝統技術伝承（蕎麦・椀餅）
- ・三段峡魅力発信冊子製作

#### ・つなぐ活動(management)

---

##### ・28年度の目標

地域の問題をお互いが自分事になる話し合いのマネジメントを行う。

##### ・主な成果

三段峡憲章策定やイベントの話し合いのファシリテーターを務め、より良い議論を促すことが出来た。またファシリテーション講座と勉強会を行い、地域でファシリテーションを広める事が出来た。

##### ・29年度へ向けて

地域の課題は、ちゃんとした「話し合い」をすることで解決できる場合が多い。話し合いの参加者が自分事になる話し合いの場をつくる事が今後ますます重要になると予想される。そういった「場」づくりを積極的におこなっていく。

- ・三段峡憲章策定ワーキンググループ事務局
- ・三段峡 Re-Born プロジェクト委員会事務局
- ・ファシリテーション講座実施 鈴木まり子（日本ファシリテーション協会フェロー）
- ・町内ファシリテーション勉強会運営（A-fmc）
- ・三段峡超軟水 PR 活動ー三段峡抹茶野点
- ・三段峡春祭り実行委員会事務局
- ・三段峡ほたる祭り実行委員会事務局
- ・林業を考える会